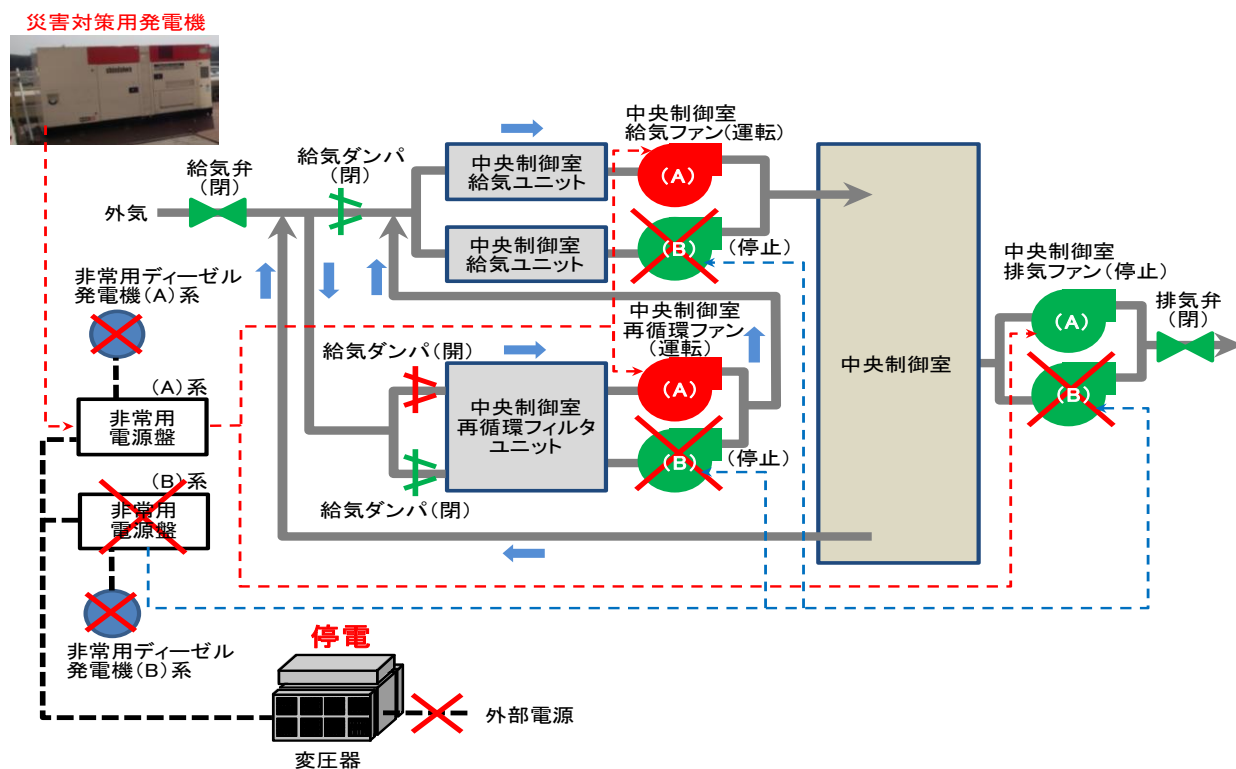


浜岡原子力発電所におけるシビアアクシデント対応に関する措置について(概要)

1 中央制御室の作業環境の確保

当社は、浜岡原子力発電所に非常用換気空調系設備用の災害対策用発電機を追加配備することとし(2011年6月末配備完了予定)、当該発電機の手順および非常用換気空調系設備の運転操作手順を作成しました。



災害対策用発電機による中央制御室非常用換気空調系設備の運転状態【3号機の例】

2 緊急時における発電所構内通信手段の確保

当社は、全交流電源喪失時に災害対策用発電機等から電力供給をおこなうための手順を作成しました。

また、屋外での通信手段として、乾電池式のトランシーバー30台、構外との通信手段として、充電式の衛星携帯電話9台を既に配備しています。

なお、PHSの交換機は建屋内のT.P.+約10m以上の位置に設置しており、今後、建屋上層階への移設等をおこないます。(2011年度末完了予定)

【発電所構内および各号機の建屋内通信手段】



構内 PHS 端末機



構内専用電話機



指令・通話装置 (有線)

【屋外の通信手段】



トランシーバー (乾電池式)

【発電所構外の通信手段】



衛星携帯電話機 (充電式)

3 高線量対応防護服等の資機材の確保および放射線管理のための体制の整備

当社は、浜岡原子力発電所への高線量対応防護服10着の配備(2011年7月末 配備完了予定)を決め、原子力事業者間で高線量対応防護服や個人線量計や全面マスク等の資機材を融通しあうことを確認しました。

また、当社では、浜岡原子力発電所の従業員に対して、放射線測定器の取扱い方法等の教育訓練を定期的におこなっており、放射線管理要員以外の者も汚染測定がおこなえるようにしています。

さらに、放射線管理要員以外の者が線量計貸し出しや作業員の放射線量に関するパソコンへのデータ入力等の補助的な業務を助勢する仕組みを整えました。

タングステン製高線量対応防護服(例)



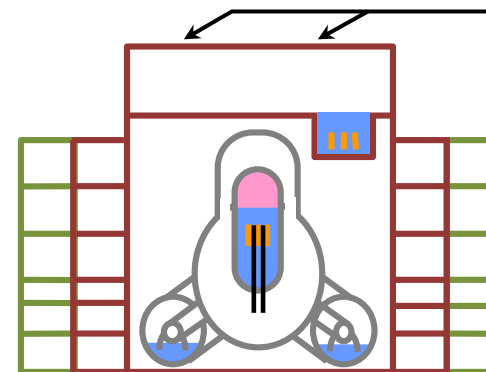
- ・重量:約 18 kg
- ・遮へい能力:約 20%減鉛 2mm 相当相当(カクG値)

4 水素爆発防止対策

当社は、漏えいした水素を原子炉建屋から放出し水素爆発を防止するための措置として、原子炉建屋への穴あけ手順を作成しました。

穴あけ作業に必要な資機材については、既に1プラント分配備を完了しており、今後、全号機分の配備をおこないます。(2011年7月末 配備完了予定)

また、中長期対策として、原子炉建屋内に水素検知器の設置および建屋から水素を放出するためのベント設備の設置をおこないます。(2012年度上期 設置完了予定)



水素ガス放出用開口部設置位置
設置箇所数 2箇所
開口寸法 600mm x 600mm

穴あけ用資機材(例)



発電機 ディスクグラインダー 電気ドリル ニブラ

5 がれき撤去用の重機の配備

当社は、緊急安全対策として、浜岡原子力発電所構内にホイールローダー1台を配備しました。さらに、がれき撤去の作業性向上のため、キャタピラ式のブルドーザー、クローラーキャリア、油圧ショベルを1台ずつ既に配備しています。

また、これらの重機の運転操作ができる要員の増員を計画しています。(2011年7月上旬増員予定)



ホイールローダー ブルドーザー クローラーキャリア 油圧ショベル (アーム先端は取替可能)